

菊本副院長の漢方問答 その 76

問 「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」⑥

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。表の「瘀血(おけつ)を伴う場合」の二番目、桂枝茯苓丸(けいしぶくりょうがん)についてお話します。

表 肥満の頻用処方

固太りタイプ	防風通聖散、大柴胡湯、大承気湯
水太りタイプ	防己黄耆湯、越婢加朮湯、九味檳榔湯
瘀血を伴う場合	桃核承気湯、桂枝茯苓丸
気逆・気鬱を伴う場合	柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、加味逍遙散、抑肝散、半夏厚朴湯

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)

桂枝茯苓丸は、漢方の重要な古典である「金匱要略(きんきょうりやく)」に登場します。

構成生薬は、桂枝(ケイシ)、茯苓(ブクリョウ)、牡丹皮(ポタンピ)、芍薬(シャクヤク)、桃仁(トウニン)です。

「婦人妊娠病」という章に桂枝茯苓丸に関する条文があります。なんともややこしい条文ですので、詳細は省かせていただきます。要するに、桂枝茯苓丸は「妊娠や生理の不調による出血などがみられるときに、血の流れを改善する」お薬です。

図1



図1は、江戸時代に出版された「腹証奇覧(ふくしょうきらん)」に掲載されている腹証図です。図1は「癥瘕圓(ちょうこえん)」となっていますが、桂枝茯苓丸にほんの少しほかの薬草をつけ加えたのが「癥瘕圓」ですから、図1は桂枝茯苓丸の腹証図と考えて差支えありません。お臍の周囲から下の方にかけて所見がありますが、カーテン(?)で隠れていて詳細が不明です。

図2は、私の漢方の師匠が描かれた桂枝茯苓丸の腹証図です。下腹が硬くなっています。血の流れが悪くなっている表れです。あと、お腹の上の方も硬くなっています。水の流れが悪くなってむくんでいます。桂枝茯苓丸は、「血の流れ」「水の流れ」ととのえて、余分なものを、からだから除いてくれます。

図2

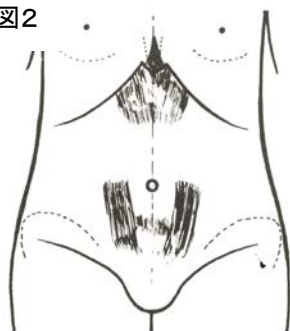


図175 桂枝茯苓丸の腹証